



コロナ禍で減少した

資料提供
令和2年12月1日
課名： がん対策課
担当： 豊田
内線： 3090
直通： 082-513-3063

「がん検診」の予約強化事業の実施について

1 趣旨

がん検診の認知度が受診行動に繋がっていないこと、特に今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で受診者数が減少していることを踏まえ、12月を「がん検診予約強化月間」と位置づけ、検診機関等では感染症対策が徹底されていることを伝えながら、「コロナ禍でもがん検診は重要であること」を県民の皆さんに強く訴える。また、電話、LINEによる「予約サポートセンター」及び「WEB予約サポートシステム」を開設し、実際の受診行動まで繋げる取組を実施する。

2 取組の背景等

(1) 受診率の伸び悩みと受診しない理由への対応

「デーモン閣下」を起用した啓発等により、多くの県民の皆さんに「がん検診」に関心を持って頂いているが、検診受診率は伸び悩んでいる（認知度8割超・受診率41%～45.9%：資料①上段）。

県独自アンケートによると、「がん検診を受けない理由」として、「受けようと思ったが後回しにしていた」「申込の手続きが面倒」「申込方法や費用などがよく分からなかった」等が上位（資料①下段）であり、申込手続等の「より踏み込んだ情報提供」と、「後押し」が必要である。

(2) 新型コロナウイルス感染症による受診者数の減少

新型コロナウイルス感染症の影響で4月中旬から約1カ月半、ほとんどの機関でがん検診がストップし、その後、各機関では感染症対策を徹底しながら検診を再開しているが、今年度の受診者は例年よりも大きく減少している（全国及び本県の状況：資料②）。

この落ち込みによる早期発見の遅れが、今後、がんによる死亡者数に影響することが懸念されるため、検診機関は感染症対策を徹底しており、安心・安全であることを伝えながら、「コロナ禍においても必要ながん検診」を受診するよう強く訴える必要がある。

3 取組内容

(1) がん検診予約サポートセンターの設置

電話及びLINEによる相談対応と予約への誘導

0120-341-112 12月1日～12月28日（土日含む）9:00～17:00

LINE ID: 「@gankenshin」で検索 12月1日～12月28日

(2) がん検診WEB予約サポートシステムの開設

WEBシステムによる予約への誘導（不明な場合や相談対応等は(1)へ誘導）（資料③）

URL: hiroshima-gankenshin.com/support/ 12月1日～12月28日

（スマートフォン画面イメージ：右図）



(3) 検診機関は安心・安全であることの情報発信

各検診機関（会場）では、検温や手洗い、手指消毒、マスク着用、身体的距離の確保といった基本的対策の実施はもちろん、3密を回避した検診環境の整備による感染予防対策を徹底していることを以下により県民の皆さんにお伝えする。

- ① 県・市町・各検診機関で連携した情報発信（公式 SNS、HP など）
- ② 県広報番組「ひろしま県民テレビ」（12月6日放送予定）
- ③ 検診機関のコロナ対策に関する取材～報道

(4) 「コロナ禍においてもがん検診が重要であること」の情報発信と(1)(2)への誘導

以下のキーメッセージを①～③により、県民の皆さんへお伝えし、サポートセンターや WEB 予約サポートシステムへ導く。

【キーメッセージ】

- **コロナも怖いのがんも怖い** ～ 全国で年間 37 万人以上（県内でも 8 千人以上）ががんで亡くなる。
- **検診機関は、コロナ感染症対策を徹底**
（検温や手洗い、手指消毒、マスク着用、身体的距離の確保といった基本的対策の実施はもちろん、3密を回避した検診環境の整備による感染予防対策を徹底）
- **がんは早期発見なら治癒する可能性大！**
（早期なら 5 年生存率 90% 以上）
- **早期発見に有効なのはがん検診**



特設 WEB ページ トップ画面イメージ

① 特設 WEB ページ開設 ((1) (2) への誘導)

URL: hiroshima-gankenshin.com

(スマートフォン画面イメージ：右図)

② デジタルマーケティング (SNS 広告等) を活用した情報発信と①への誘導

《発信媒体及び方法》

- Google Display Network (GDN), Yahoo! ブランドパネル, LINE

: ディスプレイ広告を掲出し、このディスプレイをタッチすると特設 WEB ページにリンクする。

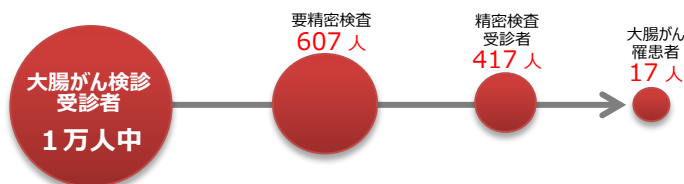
- Facebook

: 画面をスライドするとデーモン閣下からの動画メッセージを配信され、動画下部に位置する「詳しくはこちら」ボタンを押すと特設 WEB ページにリンクする。

③ 県公式 SNS による情報発信と①への誘導

【参考】

がんは、無症状のうちに検診を受診すれば早期発見につながり、適切な治療によって治癒の確率も高くなります。例えば、日本対がん協会が 2017 年に全国の支部で行った大腸がん検診の結果では、大腸がん検診を 1 万人が受診すると、17 人に大腸がんが発見されるという割合が報告されています。このことから、検診受診者数が減少することで、同等の割合でがんの早期発見が遅れてしまう可能性が考えられます。



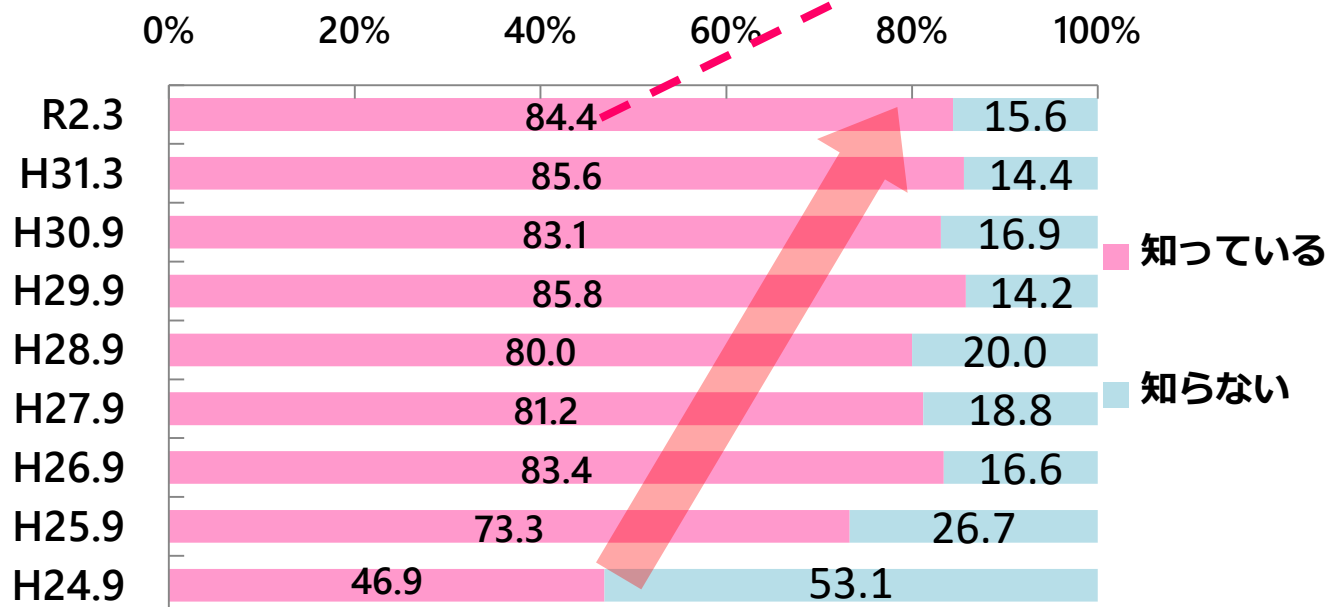
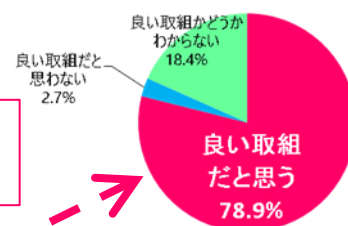
出所：(公財) 日本対がん協会ホームページの内容を元に作成

啓発キャンペーンの県民認知度(広島県独自調査より)

- ◆キャンペーンの県民の認知度は8割超を維持
- ◆キャンペーンを知っている方の7割が「良い取組」だと積極的に評価

認知度 84.4%

の内訳



がん検診受診率(令和元年国民生活基礎調査 <厚生労働省>)

部位	胃	肺	大腸	子宮	乳
広島県	41.3%	45.9%	41.0%	43.6%	43.9%
全国	42.4%	49.4%	44.2%	43.7%	47.4%

がん検診を受けない理由(広島県独自調査より)

- 1 受けようと思っていたが、後回しにしていた 26.9%
- 2 申込の手続きが面倒くさいから 19.1%
- 3 検診費用が経済的に負担だから 17.8%
- 4 申込方法や費用など検診の情報がよく分からなかった 15.9%
- 5 必要な時は医療機関で受診できる 11.3%

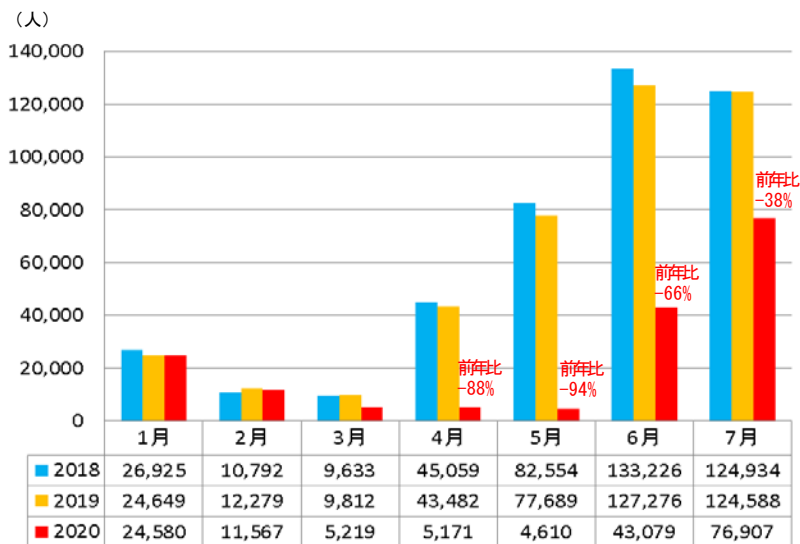
広島県独自調査
 時期：令和2年3月実施
 方法：Web アンケート
 年齢階層別無作為抽出（サンプル数 1,000 件）

新型コロナウイルス感染症によるがん検診受診者の減少について

今年度のがん検診受診者数は、4月～6月の状況をみると例年より大幅に減少している。

1 全国の状況（胃がん検診受診者数：各年1月～7月単月推移）

《公益財団法人日本対がん協会によるアンケート調査（検診業務にかかわる42支部のうち29支部から回答）》



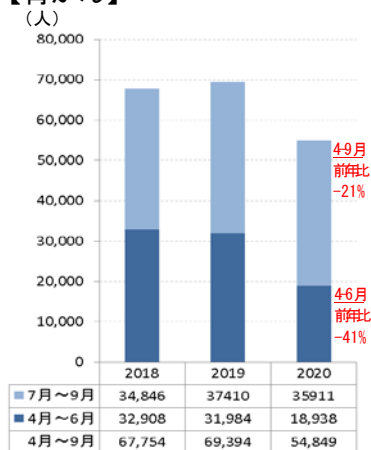
ポイント

- ・例年と比較して、4・5月は大幅に受診者数が減少している。
- ・6月からは、徐々に受診者数が回復してきているが、例年と比べて少ない。
- ※ 他の4つのがん（肺・大腸・子宮頸・乳）についても、同様の傾向である。

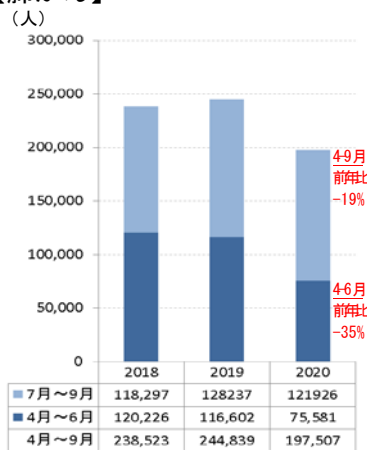
2 広島県の状況（5がん毎のがん検診受診者数：各年4月～9月合計数）

《県独自による県内協力機関10機関の受診動向調査》

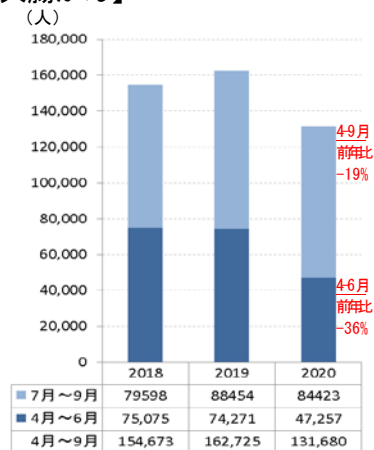
【胃がん】



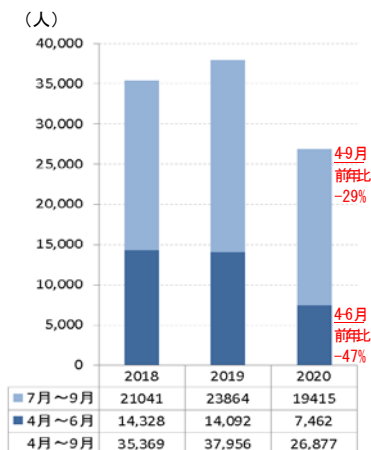
【肺がん】



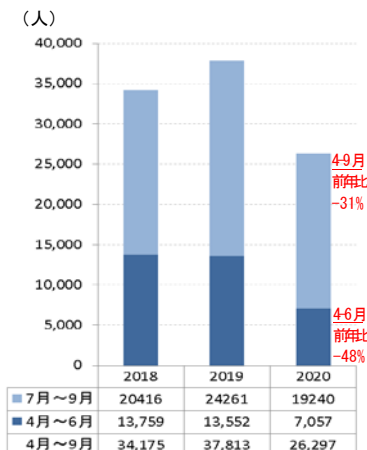
【大腸がん】



【子宮頸がん】



【乳がん】



ポイント

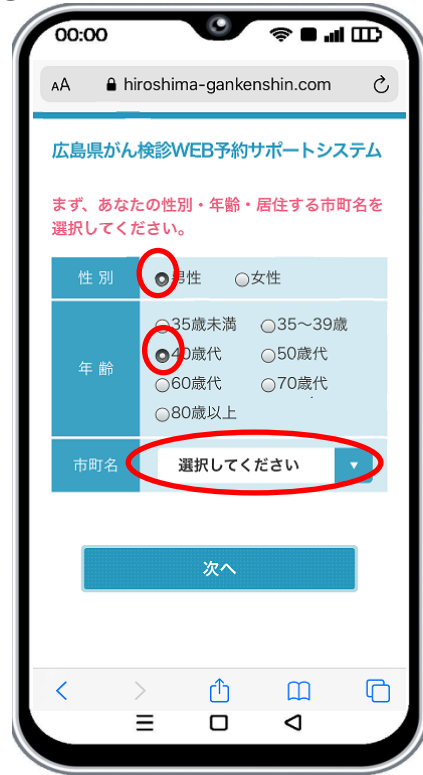
- ・例年と比較して、4月～6月は大幅に受診者数が減少している。（乳がんでは約5割減）
- ・7月から受診者数が回復してきているが、例年と比べて少ない。

《例:協会けんぽ被保険者の場合》

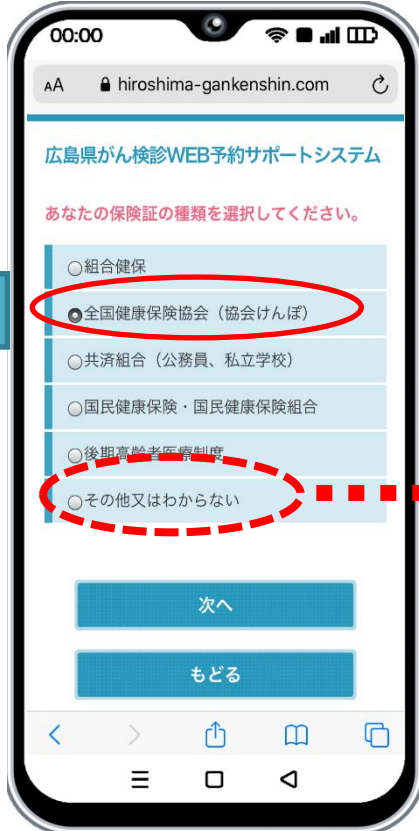
①トップ画面



②性別・年齢・居住地を選択



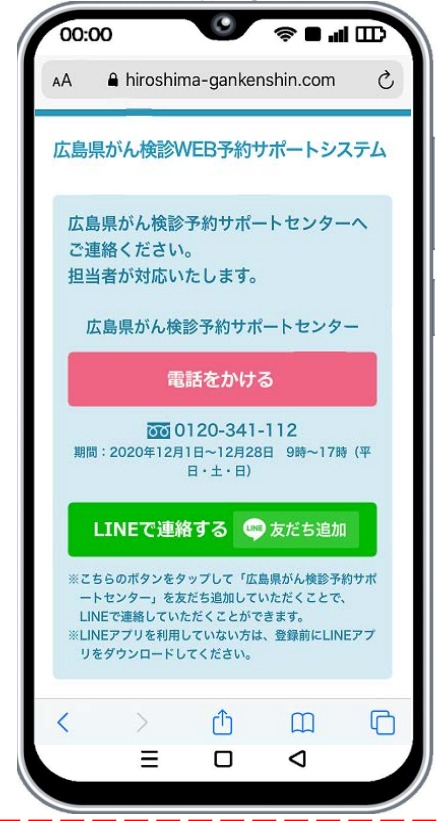
③保険証の種類を選択



協会けんぽを選択(裏面④へ)

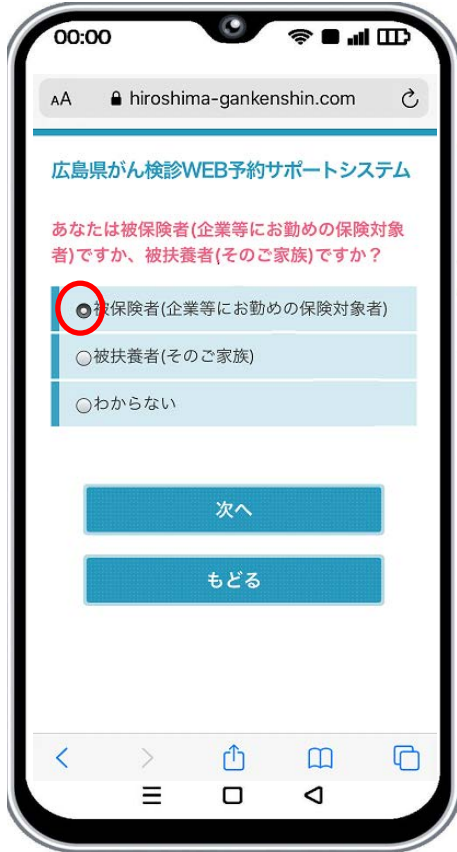
「その他又はわからない」を選択

※「わからない」場合は、電話又はLINEへ誘導(以後同様)

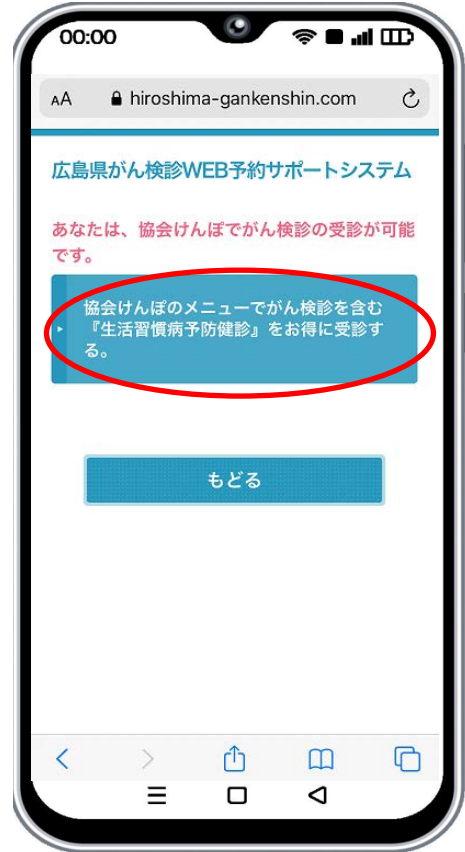


(裏面③から)

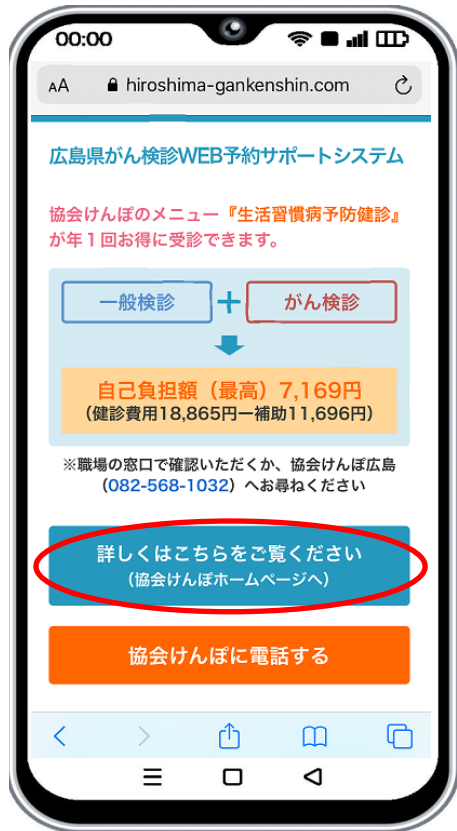
④被保険者は被扶養者を選択



⑤受診方法を選択



⑥受診方法を確認



⑦協会けんぽホームページから予約

